

安全データシート (SDS)

作成日 2009/01/05

改訂日 2013/11/05

*シンプルグリーンウエットタオルの SDS について

タオル自体は固体であり SDS の対象外となっているため、この SDS はシンプルグリーンウエットタオルに含まれている洗剤についての記述となります。

1 化学物質等及び会社情報

- 【化学物質等の名称】 シンプルグリーン ウエットタオル
製品品番 : SG-ST
- 【供給者】 ムラテック KDS 株式会社 (総輸入発売元)
- 【住所】 京都市南区東九条松田町 39
- 【担当部門】 業務部
- 【電話番号】 075-662-7325 (問合せ先・緊急連絡先)
- 【FAX 番号】 075-661-2764
- 【推奨用途】 手に付着した油污れ、換気扇、レンジまわり、産業機器全般、カーペット、床 (コンクリート・木)、磁器類、セラミック、ペンキ (乾いていない状態)、工具などの油脂や油脂分の除去
- 【使用上の制限】 革製品、食品、車内のパネル類には使用しないこと。プラスチック等へ使用する場合は目立たない場所で試してから使用すること。

2 危険有害性の要約

| | |
|-------------------|-----|
| 急性毒性 (経口、経皮、吸入) | 区分外 |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | 区分外 |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | 区分外 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | 区分外 |
| 生殖細胞変異原性 | 区分外 |
| 発がん性 | 区分外 |
| 生殖毒性 | 区分外 |

| | |
|-----------------|-----|
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | 区分外 |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | 区分外 |
| 吸引性呼吸器有害性 | 区分外 |
| 水生環境有害性（急性） | 区分外 |
| 水生環境有害性（慢性） | 区分外 |

3 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

化学名又は一般名：合成洗剤

成分、含有量、官報公示整理番号及びCAS No.

| 成分名 | 含有量 | 化審法官報公示整理番号 | CAS No. |
|----------------------------------|--------|-------------|------------|
| 水 | ≥94.8% | — | 7732-18-5 |
| Ethoxylated Alcohol | ≤1% | — | 68439-46-3 |
| トリナトリウム シトラート | ≤1% | 2-1323 | 68-04-2 |
| N, N-ビス(カルボキシメチル)-L-グルタミン酸四ナトリウム | ≤1% | — | 51981-21-6 |
| 炭酸ナトリウム | ≤1% | 1-164 | 497-19-8 |
| クエン酸 | ≤1% | 2-1318 | 77-92-9 |

4 応急措置

| | |
|-----------|---|
| 吸入した場合 | 吸入による呼吸器への影響は予期していない。 万が一、有害な影響がある場合は、新鮮な空気に入れ替えること。 |
| 皮膚に付着した場合 | 皮膚への炎症は予期していない。 万が一、有害な影響がある場合は、水で皮膚を洗うこと。 まれに皮膚の弱い方が連続して使用すると乾燥肌の状態が続くことがある。 |
| 眼に入った場合 | 眼の炎症は予期していない。 万が一、有害な影響がある場合は、水で眼を洗い流すこと。 |
| 飲み込んだ場合 | 胃の調子が悪くなる場合がある。 多量の水を飲んで薄める。 「11 有害性情報」も合わせて確認のこと。 |

全ての場合において、症状が続くようであればすぐに医師の診察を受けること。

5 火災時の措置

| | |
|-------------|---|
| 消火剤 | 粉末消火器、二酸化炭素消火器、水噴霧消火器、機械泡（耐アルコール型）消火器 |
| 使ってはならない消火剤 | 大量の噴流水 |
| 特有の危険有害性 | シンプルグリーン自体は不燃性である 有害燃焼副産物として、火災の際、酸化炭素が形成される |
| 消火を行う者の保護 | 空気呼吸器と防火衣を着用のこと |

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

「8 ばく露防止及び保護措置」にある個人保護具の使用を勧める。

環境に対する注意事項

排水溝、下水、水路への流出を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性吸収剤（例：おがくず、粒状粘土、ペット用砂など）で囲み、吸収させる。
水で薄め、下水道へ洗い流す。もしくは、適切な容器に回収して廃棄する。

7 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

| | |
|----------|--|
| 技術的対策 | 適度な換気を確保する。 |
| 安全取扱注意事項 | 子供の手の届かないところに置くこと。 熱、火花、裸火、直射日光に当てない。 容器に穴をあけない。 他の化学物質を混ぜない。 「13 廃棄上の注意」を参照し、適切に廃棄すること。 |
| 衛生対策 | 使用中は飲食、喫煙しないこと。 取扱後、飲食する前にはよく手を洗うこと。 |

【保管】

| | |
|---------|--|
| 安全な保管条件 | 容器の蓋をきちんと閉める。 温度が42℃を超える場所には保管しない。 長期間、日光が当たる場所には保管しない。 長期間の保管で分離した場合は、よくかき混ぜること。 |
|---------|--|

8 ばく露防止及び保護装置

| | |
|--------|--|
| 【許容濃度】 | OSHA や ACGIH における評価で、TWA、STEL にリストされている成分は含まれていない。 |
| 【設備対策】 | 特になし |
| 【保護具】 | |
| 呼吸用保護具 | 換気の良い場所で使用すること。 |
| 手の保護具 | 皮膚が敏感な人は、保護手袋を着用のこと。 |
| 眼の保護具 | はねが飛んだり、スプレーがかかる場合は保護メガネを着用のこと。 |

9 物理的及び化学的性質

| | |
|----------------|------------------------------|
| 外観：物理的状态 | 液体 |
| ：形状 | 液体と固体の混合物 |
| ：色 | 無色透明な液体に白色の物質 |
| 臭い | 微臭 |
| 臭いのしきい値 | なし |
| pH (原液) | 9.0±0.5 |
| 融点・凝固点 | 0～3.33 °C |
| 沸点 | 101°C |
| 引火点 | >100°C |
| 蒸発速度 | 1/2 酢酸ブチル、25°C |
| 燃焼性 | なし |
| 爆発範囲 | 不燃性 |
| 蒸気圧 | 25°C 31.0mmHg、37°C 106.0mmHg |
| 蒸気密度 | なし |
| 比重 | 1.01～1.03 |
| 溶解度 | 水溶性 100% |
| n-オクタノール／水分配係数 | なし |
| 自然発火温度 | なし |

10 安定性及び反応性

| | |
|-----|----|
| 反応性 | なし |
|-----|----|

| | |
|------------|--|
| 化学的安定性 | 通常環境下（21℃、760mmHg）においては安定 |
| 避けるべき条件 | 過度の熱や低温 |
| 混触危険物質 | 酸化剤、酸、酸性タイプの洗剤、除菌剤 |
| 危険有害な分解生成物 | 燃焼物質として通常、一酸化炭素（CO）・二酸化炭素（CO ₂ ）が発生する |
| 予見可能な誤使用 | 特になし |

1 1 有害性情報

| | |
|------------------------------|--|
| ばく露経路 | 皮膚、眼接触、吸入、経口摂取 |
| 短期もしくは長期のばく露における急性、遅発性、慢性の影響 | 特になし |
| 急性毒性 | 経口 LD 50（ラット） > 5.0 g / Kg 体重 皮膚 LD 50（ウサギ） > 5.0 g / Kg 体重 ※OECD の「化学物質および混合物が人の健康および環境に及ぼす有害性に関する包括的国際調和分類体系」に基づき算出。 |
| 発がん性 | OSHA、IARC、NTP に記載されている物質は含んでいない。 |

※眼：Ocular Irritation[®] によると、最小の刺激性に評価分析された。よって、動物実験は行っていない。

※皮膚：Dermal Irritation[®] によると、刺激性なしに評価分析された。よって、動物実験は行っていない。

1 2 環境影響情報

| | |
|-----------|---|
| 【水生毒性】 | 低い（OECD 201、202、203 に基づく） Microtox [®] EC50 ≥ 100mg/L IC50 ≥ 100mg/L |
| 【残留性・分解性】 | OECD 301D の Closed Bottle 試験において、容易に生分解された。 |
| 【生体蓄積性】 | 適用されない |
| 【土壌中の移動性】 | データなし |

1 3 廃棄上の注意

| | |
|---------|-------------------|
| 【残余廃棄物】 | |
| 未使用 | 完全に乾かした状態にして廃棄する。 |

使用後 使用済みのウェットタオルは洗浄対象物によっては危険物質が含まれている可能性がある。

【汚染容器及び包装】 空容器は、水で繰り返し（約3回）洗浄しリサイクルに出す。

残余廃棄物、使用後の廃液、未使用の液に関わらず廃棄時には、国／都道府県／市町村の規則に従って処理を行うこと。使用後の廃液は海や河川などの公共用水域に流さない。空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

1 4 輸送上の注意

| | |
|-----------|--------|
| 国連番号 | 適用外 |
| 品名（国連輸送名） | 洗剤、洗浄液 |
| 国連分類 | 危険性なし |
| 容器等級 | 該当しない |
| 海洋汚染物質 | なし |
| MARPOL | 該当しない |
| 国内規制 | 該当しない |

1 5 適用法令

| | |
|----------------|-------|
| 労働安全衛生法 | 該当しない |
| 化学物質管理法（PRTR法） | 該当しない |
| 毒物及び劇物取締法 | 該当しない |
| 水質汚濁防止法 | 該当しない |

1 6 その他の情報

引用文献

JIS Z 7252 : 2009（GHSに基づく化学物質等の分類方法）

JIS Z 7253 : 2012（GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS））

NITE（独立行政法人製品評価技術基盤機構）HP

経済産業省 HP

環境省 HP

ここに使用したデータはメーカー及び認定技術機関が入手したものであり、購入者側の目的に合致するか否かの判断は購入者側の責任になる。従って情報提供には十分な注意を払ったが、購入者の意図する目的にこれら情報が合致するか否か、又は、その使用結果に関しては、いかなる保証、抗議するものではなく、責任を負うもでもない。